

子どもたちの教育機会の不均等、社会で生きる意欲・知識・技術・徳力の不足した次世代、停滞する日本社会 ...

誰でも蛇口を開けば良質な水道水が手に入るように  
どの子ども、より良い教育を受けられる社会に

柔軟に変化し、自他の可能性を活かす水のように  
子どもたち、次世代が生き生きと育つ社会に



ノートで日本を変える  
次世代教育総合支援

H<sub>2</sub>O

NPO 特定非営利活動法人エイチツーオー

水が集まり大海をつくるように、多くの人々と協力し実現していきます

# これほど繁栄した日本であるのに、教育の現状はどうでしょう。

どの子ども、可能性を伸ばすために十分な教育機会を与えられているでしょうか？

日常の学用品、教育費の負担も困難な家庭の増加  
家庭の経済状況による教育を受けられる機会の不均等

子どもたちは学習意欲が減退・能力を伸ばせない  
社会の荒廃 社会の宝・資産の喪失  
競争力を失う日本 日本の停滞

H<sub>2</sub>Oは

学用品、学校教材等、物品の取得支援をしていきます  
修学旅行費等、教育費の補助支援をしていきます  
子どもたちの学習の場をつくり、提供していきます

フリーノートプロジェクト  
奨学金制度の設置  
子ども参加セミナーの開催  
新しいコンセプトの地域密着型教室の展開 など

たとえば、公立学校の教育費の家庭負担が困難なために、  
就学援助費の支給を受けている児童数は、今、どれほどになっているでしょう。

たとえば、平成 年度の東京都では、平均25%を越えています。  
地域によっては、半数近く、2人に1人が受けているのが実情です。  
現実には、日常の学用品を用意するのも経済的に苦しい家庭の子どもが、  
この日本にいるのです。(巻末参考資料1)

親の経済状況によって、子どもたちの学べる機会も格差が広がっています。  
塾や習い事の機会だけでなく、学校の選択も親の経済状況によって決まります。

それぞれの親の責任。  
そういう親の元に生まれたのだからしょうがない。  
そういう親の元で頑張れば、いっそう伸びる・・・、そういう考え方もできますが、  
私たちは自分の子だけでなく、他の人たちが育てる子どもたちが成長し、  
その子たちに支えてもらって生きていきます。  
ですから、どの子ども、私たち皆の、社会の宝ではないでしょうか。

社会の宝の子どもたち、どの子ども可能性を伸ばせる教育が受けられる、  
そんな日本であってほしいとは思いませんか。  
そういう日本である必要がありませんか。

子どもたちだけのためでなく、  
そうすることが、私たちの暮らす日本の可能性を拡げて、  
私たち皆が、豊かに暮らせていける社会を築く力になるのではないのでしょうか。

# 子どもたちの学力、知力、体力、徳力、人間力は、向上しているでしょうか？

子どもたちも高ストレス、高度情報社会で生きている  
必要な教育の質が高くなった  
家庭・学校・地域の教育力の低下

生きる力、希望が足りずに負けてしまう子どもたち  
社会で生きる力の小さな次世代の若者たち  
社会の荒廃 競争力を失う日本 日本の停滞

H<sub>2</sub>Oは

学校・家庭の教育力の向上を支援していきます  
子どもたちの学習の場をつくり、提供していきます  
地域に子どもたちを支える人と場を育てていきます

教師力養成・向上のセミナーの運営  
授業委託  
子育てセミナーの開催  
子育て支援ネットワークの構築 など

教育の質も問題になっています。  
子どもたちの学力・体力は低下しています。精神性も低下しています。

そのことで、子どもたちも悩んでいます、困っています。

社会で生きていく技術、知識、  
生きていく希望を持たずにいる子どもたちが大勢います。  
そのために、可能性を拡げられずにいる子がいます。  
自ら死を選んでしまう子もいます。  
人を傷つけてしまう子もいます。

今の子どもたちが生まれながらに昔に比べて劣っているわけではありません。  
皆、それぞれに可能性を持って生まれてきています。

ただ、生きる力・希望を持つ、  
可能性を拡げる機会が不足しているのではないのでしょうか。

今の子どもも、行動する勇気と方法のヒントを与えてあげ、フォローしてあげれば、  
生き生きと挑戦し、どんどん成長していきます。

子どもたちが生きていく技術、知識、生きる希望を持てる機会をつくるのが、  
今の日本には、早急に必要ではないのでしょうか。

学校教育者等々、さまざまな分野で努力していらっしゃる人が大勢います。  
さらにいっそう、さまざまな人が気づき、立ち上がり、つながり、  
この機会が増えていく必要があるのではないのでしょうか。

巻末資料：OECD(経済協力開発機構)実施のPISA調査(生徒の学習到達度調査)

# 若者は、社会で生きる希望、能力、意識を持って、社会に出てこれているのでしょうか？

生きる力、希望が足りずに負けてしまう若者  
社会で生きる能力の小さな次世代の若者

H<sub>2</sub>Oは

社会人力の教育の場をつくり、提供していきます  
企業や行政等における人財教育を支援していきます  
次世代・企業双方に有効な就職支援をしていきます

↓

社会の荒廃 資源の浪費 人財の不足 日本の停滞

→

社会人力セミナーの開催  
学生と企業のマッチング支援事業  
人財育成研修の出講 など

成人しても、働く行動のできない人がいます。  
就職しても、当面必要な社会で生きる根本的な能力のない人も大勢います。  
そのために、企業や社会の活動が停滞している面がありますが、  
その人たち側に立ってみれば、やはり、子どもたちと同じように、  
生きる技術、知識、生きる希望を持ててこなかったという悩みがあります。

社会で生きる技術、知識、生きる希望を持たせあげることが、  
社会に出るまでに、本来、必要な教育のはずでは、

企業では、新入社員教育をしますが、  
今は、さらに人としての基本から教育しないとならないようになってきています。  
しだいにその傾向は強くなってきています。

入社3年目で3分の1近い人が辞めると言います。  
前向きな理由で辞める人もいます。  
しかし、ほとんどは、  
新しいことを覚えたり挑戦する方法を知らず、意欲も不足していて、  
後ろ向きな理由で辞めていきます。生き抜く力が小さいのです。

たとえば、新入社員教育で行われているマナー教育などにしても、  
本来、社会人となってからはじめて学び、身につけるべきものでしょうか。  
働くことの意義、目的なども、社会人となってから学ぶべきものでしょうか。

今の社会の状況を見ると、残念ながら、  
この面について、家庭教育、学校教育の機能は不足してきたのでは、

これは、そこに従事する人たちの責任ということではありません。  
私たちほとんどの日本人がそれで良いとしてきたのですから。

しかし、今、もうこのままではいけないと思いませんか。  
どうにかしなければいけない、そう思いませんか。

子どもたち、次世代の人たちが、社会に出る前に、出たら早めに、  
生きるための技術や知識、生きる意欲・希望を身につけられる機会を、  
早急に増やしてあげることが、  
彼らのために、そして今働いている人たちのために、  
日本のために、今、必要ではないでしょうか。重要ではないでしょうか。

# H<sub>2</sub>Oの事業

民間企業  
団体・個人  
からの協賛

- ◆会費
- ◆物品や利用の  
無償・割引提供

フリーノート  
プロジェクト

協賛社名入ノート  
広告入ノート

子どもたちへ

ノートほか、学用品、教材類の取得支援  
さまざまな学びのイベントや講座の開催  
新しいコンセプトの地域密着型教室の展開  
修学旅行費など教育費の補助支援 奨学金 ほか

保護者へ

子育てセミナーの開催  
子育て支援ネットワークの構築  
相談・カウンセリング ほか

学校へ

教師力養成・向上セミナーの開催  
授業委託 ほか

次世代の  
若者へ

社会人力習得研修の開催  
就職支援 ほか

民間企業・団体  
行政機関等へ

社会貢献／CSR

就労前・後の次世代育成研修講師の派遣  
人財発掘・確保の支援  
管理職等への研修講師の派遣  
従業員・職員への子育てセミナーの開催 ほか

★協賛企業・団体には特別料金にて研修出講し、人財育成の機会の増加に協力



日本がよりいっそう良くなっていくように、教育の発展に貢献していきます。

# 教育費の負担の軽減、より良い教育の創出を目指す フリーノートプロジェクト

## 企業・団体・個人からの会費、学用品等の無料・割引提供の支援によって

ノートをつくり無料配布していきます。

学用品等の無償・割引提供をしていきます。

修学旅行費等の教育費の補助支援をしていきます。

奨学金制度をつくり、運営していきます。

セミナーの開催等をしていきます。

教育支援事業を拡大していきます。

ほか

**企業・団体の参画方法はお選びいただけます。** (下記からAのみとするか、そのほかを組み合わせるか選択していただけます)

A. 会員として

組み合わせ : A / A + B / A + D / A + B + D / A + B + C + D

B. フリーノートパターン に協賛している企業・団体として掲載される

(CはBが自動的に含まれます)

C. フリーノートパターン に広告を掲載する

パターン は、表紙裏に企業・団体名を掲載。

D. 学用品等の無償・割引供給に協力をする

パターン は、ページの上下欄外に1ページ1企業・団体の広告を掲載。

ノート種別	パターン	パターン - 1	パターン - 2
配布対象	公立学校児童生徒等	子ども一般、保護者等	大学・専門学校生
配布場所	公立学校等	私立学校、子ども関連施設、エイチツーオー開催イベント場等	大学・専門学校
配布期間	1種6ヶ月を目安に新版	生産単位配布完了まで	生産単位配布完了まで
掲載企業・団体数	制限なし	1単位80まで	1単位80まで
生産・配布冊数単位	10,000 ~	10,000 ~	10,000 ~

生産・配布冊数: パターン は、会費全体の収入にしたがい増加させていきます。パターン は、配布期間ごとに別途の会費として1万冊を1単位として配布します。

## 企業・団体の参加メリット

社会貢献、ノートによってCSRを実現。

エイチツーオーから人材育成研修の講師の出講を特別料金で受けられ人材育成費を軽減。将来の人財の質的向上。

# ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます 入会のご案内

## ご入会・年会費でのご支援ご協力

		入会金	年会費
一般会員A	0歳から20歳未満の就労前の学生までの個人 (高校生、大学生、専門学校の学生は学生証の写しが必要)	0円	0円
一般会員B	エイチツーオーの事業で学用品の割引援助、教育費の補助援助等を受ける個人 (別途申請が必要)	0円	0円
一般会員C	一般会員A、B以外の個人	2,000円	5,000円
賛助会員	エイチツーオーの事業に賛助する個人又は団体 (許可を得てから、ホームページ等で会員として掲載)	10,000円	1口 20,000円以上
法人会員	エイチツーオーの事業に賛助する法人 (許可を得てから、フリーノート、ホームページ等で会員として掲載)	10,000円	1口 300,000円以上

フリーノートパターン に広告掲載をご要望の場合は ・随時別途ノート1単位制作ごとに、広告1箇所につき、年会費1口以上をお願いします。  
・広告原稿をご用意ください。

## 物品の無料提供、割引提供によるご支援ご協力

学校での学習に必要な物品を、無償で提供したり、低所得者等入手が困難な方々に、割引で提供できる仕組みをつくり、運営します。  
会員の法人様で、ご支援いただける法人様はよろしくお願い致します。

足立区	47.2%
墨田区	36.9%
板橋区	36.9%
北区	33.7%
荒川区	33.7%
江東区	32.9%
江戸川区	32.9%
葛飾区	30.4%
大田区	30.1%
品川区	29.5%
中野区	26.9%
練馬区	26.3%
台東区	25.6%
港区	25.0%
渋谷区	24.2%
新宿区	22.9%
豊島区	22.0%
杉並区	21.9%
文京区	15.4%
世田谷区	14.9%
中央区	14.4%
目黒区	13.0%
千代田区	6.7%

## 就学援助制度について

文部科学省ホームページより

### 1 就学援助制度の概要

学校教育法では、「経済的理由により就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対しては、市町村は、必要な援助を与えなければならない。」(同法第25条、第40条)とされています。

### 2 就学援助の対象者

#### (1) 要保護者

生活保護法第6条第2項に規定する要保護者。

#### (2) 準要保護者

市町村教育委員会が生活保護法第6条第2項に規定する要保護者に準ずる程度に困窮していると認める者。

日本の首都、世界有数の大都市である東京の子どもたちの4人に1人以上が  
経済的に困窮と認められる家庭で、教育費の負担が厳しい。それが日本の現実です。

就学援助費の支給を受けている家庭の中には、

援助費ではとうてい足りずに、日常の学用品の購入にも困っている家庭、子どもたちがいます。

国の改革も望まれますが ...

民間の協力で支援

H<sub>2</sub>Oの活動

フリーノープロジェクト

読解力	2000年	2003年	2006年
日本の得点	522点	498点	498点
OECD平均	500点	494点	492点
OECD加盟国中の順位	8位	12位	12位
全参加国中の順位	8位	14位	15位

数学的リテラシー	2000年	2003年	2006年
日本の得点	557点	534点	523点
OECD平均	500点	500点	498点
OECD加盟国中の順位	1位	4位	6位
全参加国中の順位	1位	6位	10位

科学的リテラシー	2000年	2003年	2006年
日本の得点	550点	548点	531点
OECD平均	500点	500点	500点
OECD加盟国中の順位	2位	2位	3位
全参加国中の順位	2位	2位	6位

科学的リテラシー平均得点の国際比較

順位	科学的リテラシー全体		科学的な疑問を認識すること領域		現象を科学的に説明すること領域		科学的証拠を用いること領域	
	国	得点	国	得点	国	得点	国	得点
1	フィンランド	563	フィンランド	555	フィンランド	566	フィンランド	567
2	香港	542	ニュージーランド	536	香港	549	日本	544
3	カナダ	534	オーストラリア	535	台湾	545	香港	542
4	台湾	532	オランダ	533	エストニア	541	カナダ	542
5	エストニア	531	カナダ	532	カナダ	531	韓国	538
6	日本	531	香港	528	チェコ	527	ニュージーランド	537

低下した日本の学習到達度

世界一の科学的リテラシーの学習到達度を誇るフィンランド

	フィンランド
教育、教育者の質・技術・能力の差	実現力を高める教育術、教育者育成システム、他
教育費負担の差	高等教育まで、国が学用品等まで含めて全負担 大学も民間企業の助成により学費無料

フィンランド 22%の消費税等で実現

日本は？ 国の改革も望まれますが ...

民間の協力で実現

H<sub>2</sub>Oの活動

フリーノープロジェクト

## 水五訓



豊臣秀吉の知恵袋と言われた黒田官兵衛(黒田如水)の教え。

- 「一．自ら活動して他を動かしむるは水なり
- 一．障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- 一．常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- 一．自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るるは水なり
- 一．洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霰と化し疑っては玲瓏たる鏡となりたえるも其性を失わざるは水なり」

ここに書かれた水のような人財に子どもたち、次世代が育つようになればなら  
彼らはどうでしょう。私たち、日本はどうでしょう

## 松下幸之助「水道哲学」

1932年5月5日に全従業員を前にして松下幸之助が説いた「水道哲学」。

「産業人の使命は貧乏の克服である。  
そのためには、物資の生産に次ぐ生産をもって、富を増大しなければならない。  
水道の水は価ある物であるが、通行人がこれを飲んでもとがめられない。  
それは量が多く、価格があまりにも安いからである。  
産業人の使命も、水道の水のごとく、物資を無尽蔵たらしめ、無代に等しい価格で提供する事にある。  
それによって、人生に幸福を齎し、この世に楽土を建設する事が出来るのである。」

子どもたち、次世代のため、日本の未来のために

先に生きる私たちの使命は何でしょう

日本の教育を、水道の水のように

## お問い合わせ

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3 - 21

ちよだプラットフォームスクエア1132

T s skill 教育技術研究所内 エイチツーオー設立準備室

TEL:03 - 3409 - 7373

FAX:03 - 5926 - 6868

E - Mail:info@h2o-edu.com

ホームページ:<http://www.h2o-edu.com/>